

学校からプールが消える?!

Part.4



小中学校の
プール問題

市教委との協議を8/3に!

8月3日(木)18:30~ 中区役所6F教育委員室

前号のひとみ+から多くの感想や意見が届きました。

感想の中には「こんなことがあったなんて! 知らなかった。」というものもあり、まだ多くの教職員がこの問題を知らないことが分かりました。少しでも多くの教職員が知り、この問題について考えていきたいと思えます。

寄せられた感想には不安・反対の意見が多くみられる中、肯定する意見もありました。

「プールを民間施設で」という全国的な流れは広島県内でも確かにあります(裏面新聞記事参照)。学校の授業による水泳指導は、スイミングスクールの指導とは同列ではなく、子どもたちの集団を含めた成長・発達を育むものです。確かに外部施設だと天候に左右されないなど利点もあると思いますが、今回の「小中学校のプールの今後の方向性」のような大きな変化について、多くの教職員が知らないところで進められているところに大きな問題があります。現場の教職員としっかり時間をかける必要があるのではないのでしょうか?

【反対】

- 市教委は、一体誰のためなのか、誰の味方なのかと、思ってしまう。日々のプール指導だって、人手がなくてんやわんやです。それをもしも他所に行けとかなったら、もはや特別支援学級の子達は、どうにもならなくなっちゃうよね~
- バスの移動時間中に勉強は難しいと考えます。ただでさえバス酔いする児童に対して、どう勉強できるというのか教えて頂きたい。
- こどもたちに、実際にプールの中での活動時間を保証してやりたい。支援学級のこどもや低学年のこどもたちにとって、慣れた場所で安心して学習に取り組むことで、水への怖さが楽しみにかわり、泳げるようになる喜びにつながると思えます。バス会社への手配、外部施設や他校との連絡、調整など、教員の仕事が莫大増えるのは、明らかです。全てを現場に丸投げしないでもらいたいです。
- 施設との打ち合わせの電話対応の時間を確保するのが難しいです。現在、勤務時間内に欠席者への電話連絡をするのにも苦勞することがあります。日程や時間など、施設との利用交渉は負担が大きいと思われます。

【不安】

- 指導者や担任を除いて、監視員をおこうとしても、人員が足りず、水泳指導が実施できないことがあった。指導員の方や専科の授業の裏の教員が、入っているが、その時間に行えるはずだった業務が放課後の時間外に流れているという不満のお声をよく聞く。→受け入れ校に、人員を派遣するのはかなり負担が大きそうです。別途、人員配置があるのなら可能そうです。

【肯定】

- 専門の知識のある方に指導していただけるのなら、子どもたちにとってはメリットであるように感じます。(自分の指導に自信がないので)
- 1番は、こどもたちが、楽しく学習できる機会を作ってあげたいです。水泳授業の、管理面や、機械操作や、指導力不足などを踏まえて考えたときには、施設での水泳学習が理想だと思っていました。
- 施設のプールを使えば、天気も左右されず、指導者や、管理者などの心配もない、機械操作の負担もないなど、プラスのことが多いと思っています。

水泳授業 民間委託広がる

小中学校の水泳の授業を民間委託する動きが県内の市町で広がっている。これまでに廿日市市と福山市、府中町、海田町の4市町が導入し、広島市も9月から始める。学校プールの老朽化を受け、改築や修繕費を抑えたい狙いがある。導入校では専門的な指導が受けられるとして子どもたちの反応は上々だ。一方、受け皿の民間施設は限られ、往復時間を踏まえると対象校を広げられないなどの課題もある。(余村 泰樹)

廿日市市の県内スポーツクラブで7月上旬にあった阿品台西小の水泳授業。「手は真つすぐ伸ばそう」。3年生60人が泳力別の6班に分かれ、インストラクターの助言を受け、バタ足や水に潜る練習を繰り返した。

同小では築39年の屋外プールのサイト部分が一ひ割れ、けが防止のマットを敷き対応してきた。この6月からバスで10分以内の民間施設に授業を全面委託。3年三崎真大さん(8)は「教え方が上手で水が怖くなくなった」と笑顔だった。

担任の石川幸哉教諭(27)は「児童も意欲的で泳力の伸びが目立つ。水質管理など日々のプール管理もなくなり助かっている」と喜ぶ。

2023年(令和5年)7月13日(木曜日) インストラクター(左端)の指導を受けながら泳ぐ阿品台西小の児童



県内4市町導入 広島市9月から

学校プール進む老朽化 対象校は限定的

ぶ。市教委は現在、同小を含む小中3校で民間委託しており、坂大も検討している。

県内で最も早く委託したのは福山市。2020年度に民間や公共プールでの授業を小中学校3校で開始した。22年度に実施したアンケートでは、児童の95.5%が「楽しかった」、85.5%が「昨年より泳力が付いた」と回答。本年度は18校に広げた。

同市は自校プールを管理する場合、修繕費や水道・薬品などを1校当たり平均で年間約300万円かかる一方、外部委託は約200万円と試算。市教委は「経費が削減できる上に子どもたちの評価が高い」と坂大の意見を説明する。ただ、全面的な導入については外部の受け入れ能力にも限界があり、学校と施設を往復するバスの移動時間も考慮しないといけない」とし、プールを維持する学校と民間に委託する学校に分かれるとしている。

広島市は今年3月、民間・公共プールの活用や近隣校との共用で対応する方針をまとめた。プールのある市立の小中200校の過半数が築40年以上で、改築には1校当たり約3千万円が必要と試算する。まず、プールに亀裂が入り水漏れしていた黄金山小(南区)で9月から委託を始める予定だ。

一方、学校プールでの授業を続ける方針の自治体は多い。坂町は一部の学校と民間施設の距離が遠く、往復に時間がかかるとして海沿いの町なので授業時間を確保し、万一の際の技術をしっかりと伝えたいとする。

大阪体育大の浜上洋平准教授(体育科教育学)は全国では財政面からプール授業をやめ、水難事故での対処方法を座学で学ぶ自治体が増えていると指摘。「泳ぐ機会」の大切さを強調した上で、民間委託について「授業には泳力だけでなく、水に落ちた時に命を守る方法を身に付ける目的もある。学校はその趣旨を踏まえ、民間と連携してほしい」と求めている。